

## 青森県内の消費生活相談受付状況（令和6年4月～12月）のポイント

### 【相談全体に関して】

- 令和6年4～12月の消費生活相談件数は計 6,279 件で、前年同期と比較して 218 件の増加（増加率 3.6%）となっています。
- うち特殊詐欺の相談は計 459 件で、前年同期と比較し 99 件（17.7%）減少しました。特殊詐欺のうち、FX・暗号資産などの投資詐欺に関する相談は 117 件で、前年同期と比較し 1 件(0.9%)増加しています。

### 【特徴・変化】

#### ① 高齢者からの相談件数が増加

- ・ 65歳以上の高齢者からの相談件数 2,443 件（前年同期比+259 件、増加率 11.9%）
- ・ 相談全体に占める割合 38.9%（←前年同期 36.0%）

#### ② 各年代の相談状況（\* 矢印（→）は件数が多い相談）

- ・ 20歳未満からの相談件数 125 件（前年同期比▲11 件、減少率 8.1%）  
→ 教養・娯楽サービス(インターネットゲームやアダルトサイトなど)
- ・ 20代からの相談件数 405 件（前年同期比▲78 件、減少率 16.1%）  
→ 金融・保険サービス（融資サービス、他の金融関連サービスなど）
- ・ 30代からの相談件数 419 件（前年同期比▲54 件、減少率 11.4%）  
→ 金融・保険サービス（融資サービス、他の金融関連サービスなど）
- ・ 40代からの相談件数 726 件（前年同期比+37 件、増加率 5.4%）  
→ 金融・保険サービス（融資サービス、他の金融関連サービスなど）
- ・ 50代からの相談件数 1,010 件（前年同期比+23 件、増加率 2.3%）  
→ 保健衛生品（化粧品、理美容器具・用具など）
- ・ 60代からの相談件数 1,127 件（前年同期比▲11 件、減少率 1.0%）  
→ 保健衛生品（化粧品、医療用具など）
- ・ 70代以上からの相談件数 1,886 件（前年同期比+256 件、増加率 15.7%）  
→ 商品一般（不審な電話やメール、架空請求詐欺など）

#### ③ 特殊詐欺の相談件数は減少したが、既払金額等が増加

- ・ 特殊詐欺に関する相談件数 459 件（前年同期比▲99 件、減少率 17.7%）
- ・ 相談全体に占める特殊詐欺の割合 7.3%（←前年同期 9.2%）
- ・ 特殊詐欺における既払金額の合計 235,090 千円  
（前年同期比+69,311 千円、増加率 41.8%）

#### ④ 定期購入に関する相談が増加（過去5年間で最多）

- ・ 定期購入（化粧品・健康食品等） 774 件（前年同期比+180 件、増加率 30.3%）

#### ⑤ 副業に関する相談が減少（ただし、依然として高止まり）

- ・ 副業（登録料を支払ったが稼げない等） 152 件（前年同期比▲17 件、減少率 10.1%）

# 令和6年4-12月における青森県内の消費生活相談状況

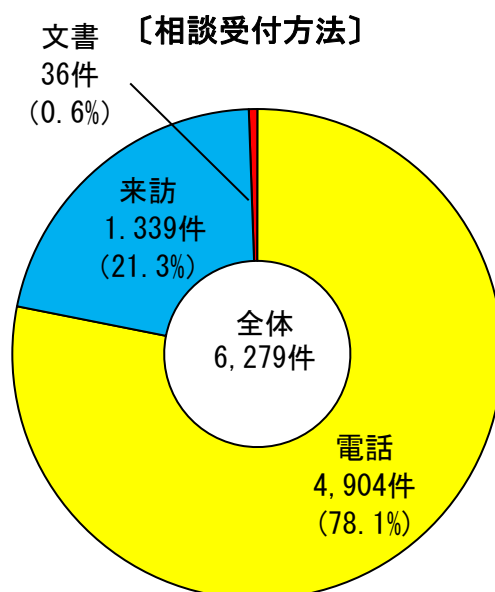
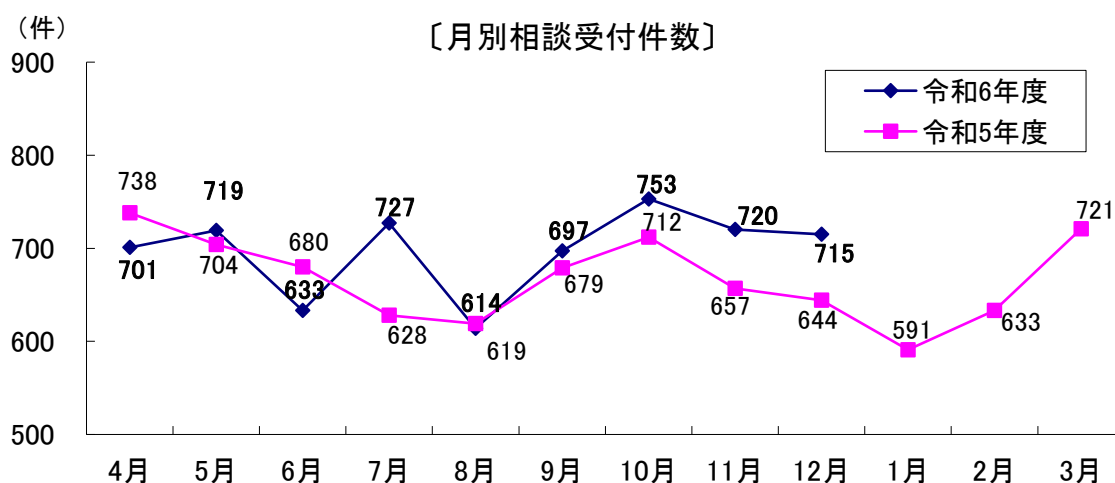
## 1 相談状況

### (1) 概況

令和6年4-12月に県内の消費生活相談窓口で受け付けた消費生活に関する相談件数は、6,279件（苦情相談5,308件、問合せ970件、要望1件）であり、前年同期と比較して218件（3.6%）増加しています。

（単位：件）

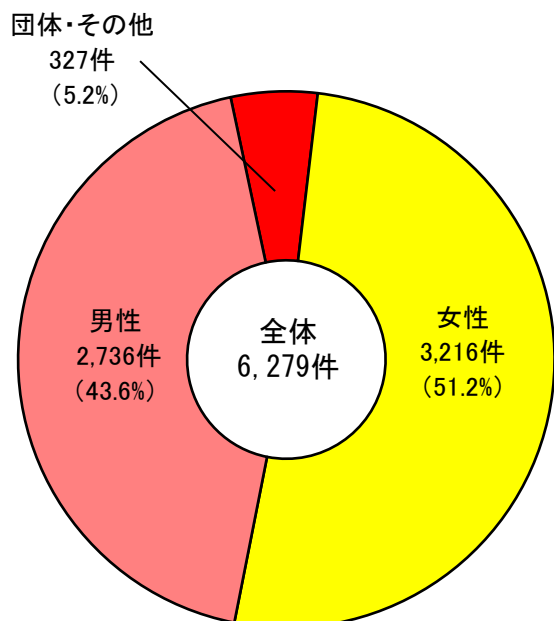
項目	年度	令和6年 4-12月 (a)	令和5年 4-12月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
苦情		5,308	5,167	141	102.7%
問合せ		970	894	76	108.5%
要望		1	0	1	-
計		6,279	6,061	218	103.6%



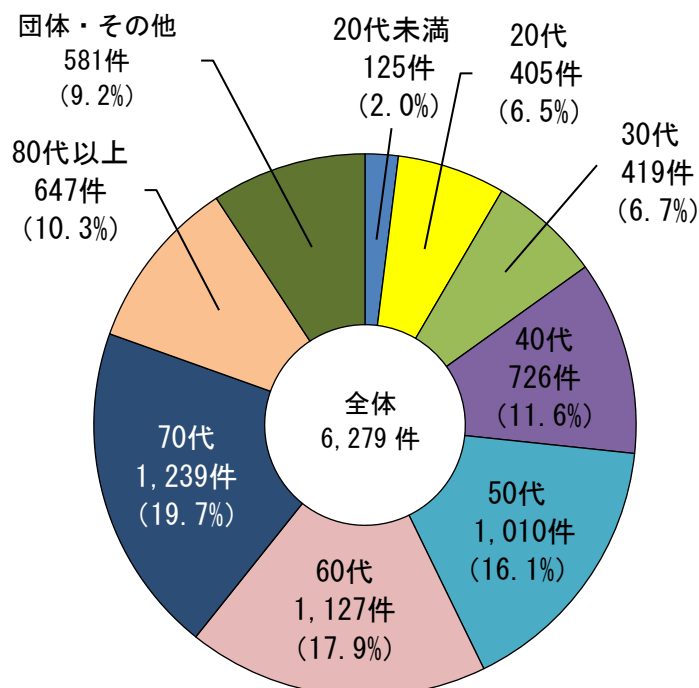
## (2) 契約当事者の状況

契約当事者を性別で見ると、女性が3,216件で、全体の51.2%を占めています。年代別では、70代が1,239件(19.7%)と最も多く、次いで60代が1,127件(17.9%)となっています。また、契約当事者を職業別で見ると、無職が2,474件(39.4%)と最も多く、次いで給与生活者が2,263件(36.0%)となっています。

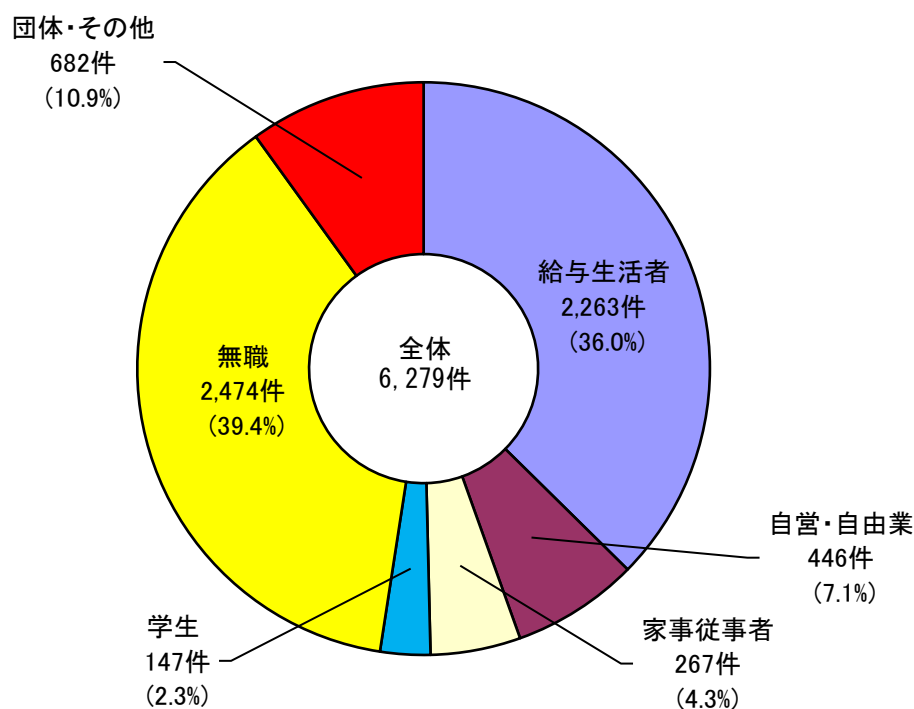
〔契約当事者の性別〕



〔契約当事者の年代〕



〔契約当事者の職業〕



### (3) 主な商品・役務別の相談状況

(単位：件)

	商品・役務名	令和6年 4-12月 (a)	令和5年 4-12月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
1	商品一般	902	752	150	119.9%
2	運輸・通信サービス	636	515	121	123.5%
3	保健衛生品	629	530	99	118.7%
4	金融・保険サービス	608	591	17	102.9%
5	食料品	527	432	95	122.0%
	その他	2,977	3,241	▲264	91.9%
	計	6,279	6,061	218	103.6%

※商品役務別の詳細は P17 商品・役務別内訳表参照

#### 1 「商品一般」

令和6年4-12月の相談件数は902件で、前年同期より150件(19.9%)増加しています。商品一般は、商品が多岐にわたる相談や、商品を特定できない相談が分類されます。また、「消費料金」等の債務内容が不明な架空請求の相談や宅配業者等を騙るフィッシング詐欺に関する相談が含まれています。

#### 2 「運輸・通信サービス」

令和6年4-12月の相談件数は636件で、前年同期より121件(23.5%)増加しています。最も多いのは、インターネット通信サービスに関する相談の265件で前年同期216件から49件(22.7%)増加しています。また、固定電話に関する相談は189件で前年同期101件より88件(87.1%)増加しています。総務省等を騙って、「あと2時間で電話が使えなくなる」という自動音声がかかる不審な電話に関する相談が増加したことが要因と考えられます。

#### 3 「保健衛生品」

令和6年4-12月の相談件数は629件で、前年同期より99件(18.7%)増加しています。化粧品に関する相談が511件で全体の81.2%を占めています。保健衛生品のうち、定期購入に関する相談は490件となっており、前年同期370件より120件(32.4%)増加しています。

#### 4 「金融・保険サービス」

令和6年4-12月の相談件数は608件で、前年同期より17件(2.9%)増加しています。最も多いのは、融資サービスに関する相談の351件で、前年同期312件から39件(12.5%)増加しています。次いで、クレジットカードの入退会に関する相談や暗号資産やFXの投資に関する相談が含まれる他の金融関連サービスに関する相談が多くなっています。

#### 5 「食料品」

令和6年4-12月の相談件数は527件で、前年同期より95件(22.0%)増加しています。最も多いのは、健康食品の345件で、前年同期243件より102件(42.0%)増加しています。健康食品のうち、247件は定期購入に関する相談となっており、前年同期155件より92件(59.4%)増加しています。

#### (4) 契約当事者年代別商品・役務相談状況（上位3位）

契約当事者の年代別の商品・役務別上位3位は以下の表のとおりとなっています。20歳未満では、教養・娯楽サービスが1位になっています。その内訳をみると、インターネットゲームやアダルト情報の相談が主となっています。20代、30代、40代では、融資サービスなどの金融・保険サービスが1位になっています。

50代、60代は、化粧品の定期購入などの保健衛生品に関する相談が1位となっています。70代、80代以上は、不審な電話やメールなどの商品一般が1位となっています。

（単位：件）

	1		2		3	
20歳未満	教養・娯楽サービス	50	食料品	17	商品一般/教養娯楽品	各 10
20代	金融・保険サービス	72	教養・娯楽サービス	46	レンタル・リース・貸借	37
30代	金融・保険サービス	62	教養娯楽品	43	商品一般/教養・娯 楽サービス	各 39
40代	金融・保険サービス	89	教養・娯楽サービス	78	保健衛生品	70
50代	保健衛生品	148	商品一般	129	金融・保険サービス	87
60代	保健衛生品	210	商品一般	157	食料品	111
70代	商品一般	221	運輸・通信サービス	209	食料品	121
80代以上	商品一般	101	食料品	92	運輸・通信サービス	83
その他・不明	商品一般	150	運輸・通信サービス	60	金融・保険サービス	59

#### (5) 相談に係る契約等の既払金額

令和6年4-12月の相談に係る既払金額等の状況を見ると、お金を支払った人の数、既払金額合計、一人当たりの平均既払金額、最大既払金額のすべてが増加しています。

	令和6年 4-12月 (a)	令和5年 4-12月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
お金を支払った人の数	1,508人	1,500人	8人	100.5%
既払金額合計	955,433千円	673,181千円	282,252千円	141.9%
平均既払金額（一人当たり）	634千円	449千円	185千円	141.2%
最大既払金額	42,500千円	36,000千円	6,500千円	118.1%

## 2 消費生活相談における特殊詐欺の状況

### (1) 概況

令和6年4-12月の特殊詐欺に関する相談件数は459件で、前年同期より99件（17.7%）減少しています。類型別にみると、振り込め詐欺の159件（相談件数の34.6%）が最も多く、次いで、FX・暗号資産などの投資詐欺の117件（同25.5%）、フィッシング詐欺の114件（同24.8%）となっています。

(単位：件)

類 型	年 度	令和6年 4-12月 (a)	令和5年 4-12月 (b)	増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
振り込み詐欺		159	154	5	103.2%
	架空請求詐欺	142	139	3	102.2%
	還付金詐欺	12	14	▲2	85.7%
	融資保証金詐欺	4	1	3	400.0%
	オレオレ詐欺	1	0	1	-
	F X・暗号資産などの投資詐欺	117	116	1	100.9%
	フィッシング詐欺	114	143	▲29	79.7%
	ウイルス感染の偽警告（サポート詐欺）	30	43	▲13	69.8%
	ワンクリック詐欺	23	36	▲13	63.9%
	出会い系サイト・アプリ	16	40	▲24	40.0%
	老人ホームの入居権詐欺	0	26	▲26	-
	合 計	459	558	▲99	82.3%

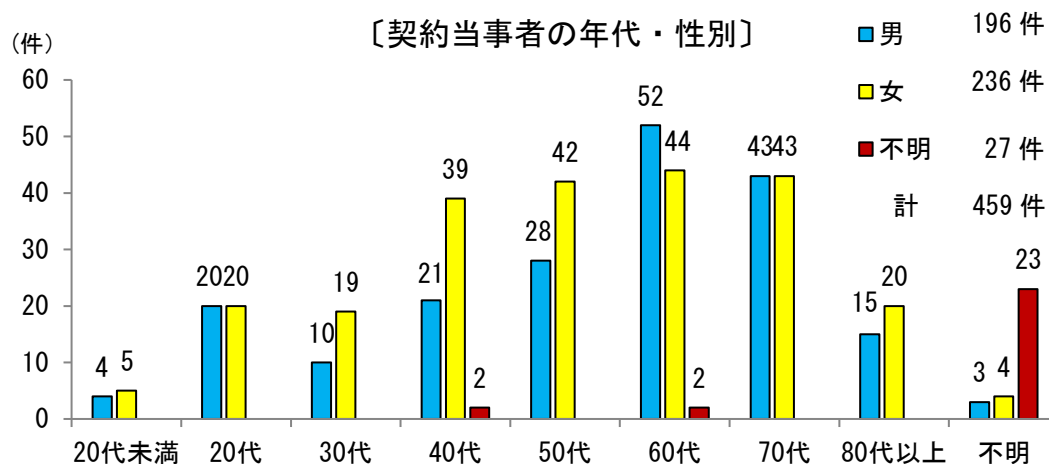
なお、それぞれの特殊詐欺の類型と、消費生活相談において分類される主な商品・役務名との対応関係は以下のとおりです。

#### (参考) 主な商品・役務別分類（P4）との対応状況

類型		主な商品・役務名
振り込み詐欺	架空請求詐欺	商品一般、教養・娯楽サービス
	還付金詐欺	商品一般、保健・福祉サービス
	融資保証金詐欺	金融・保険サービス
	オレオレ詐欺	相談その他
	F X・暗号資産などの投資詐欺	金融・保険サービス、教養・娯楽サービス
	フィッシング詐欺	商品一般
	ウイルス感染の偽警告（サポート詐欺）	他の役務、教養・娯楽サービス
	ワンクリック詐欺	教養・娯楽サービス
	出会い系サイト・アプリ	教養・娯楽サービス
	老人ホームの入居権詐欺	保健・福祉サービス

#### (2) 特殊詐欺に係る当事者の状況

令和6年4-12月における特殊詐欺に係る当事者を年代・性別で見ると、60代男性が52件で最も多く、次いで60代女性の44件となっています。



### (3) 特殊詐欺に係る既払金額

令和6年4-12月の特殊詐欺に係る既払金額等の状況をみると、お金を支払った人の数は減少しましたが、既払金額合計、一人当たりの平均既払金額が増加しています。

	令和6年 4-12月 (a)	令和5年 4-12月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
お金を支払った人の数	100人	111人	▲11人	90.1%
既払金額合計	235,090千円	165,779千円	69,311千円	141.8%
平均既払金額(一人当たり)	2,351千円	1,494千円	857千円	157.4%
最大既払金額	30,000千円	30,000千円	0千円	100.0%

## 3 相談全般における特徴

### (1) 定期購入に関する相談が増加

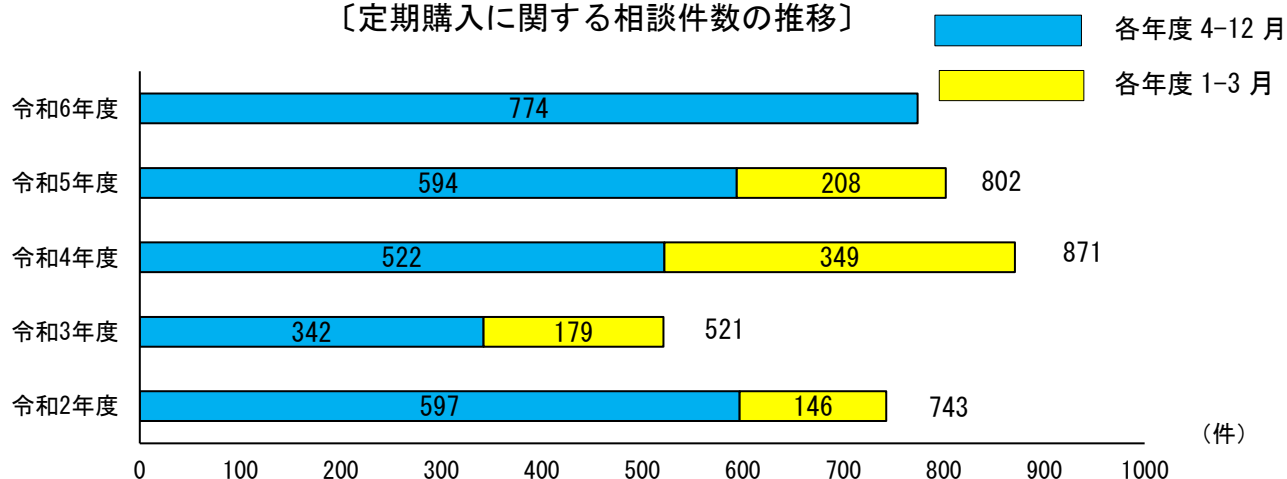
令和6年4-12月の定期購入に関する相談は774件で、前年同期より180件(30.3%)増加しました。過去5年間の相談件数をみると、令和6年4-12月が最も多くなっていることがわかります。

また、対象となる商品は化粧品が最も多い455件で、前年同期より116件(34.2%)増加、次いで健康食品が247件で、前年同期より92件(59.4%)増加しています。

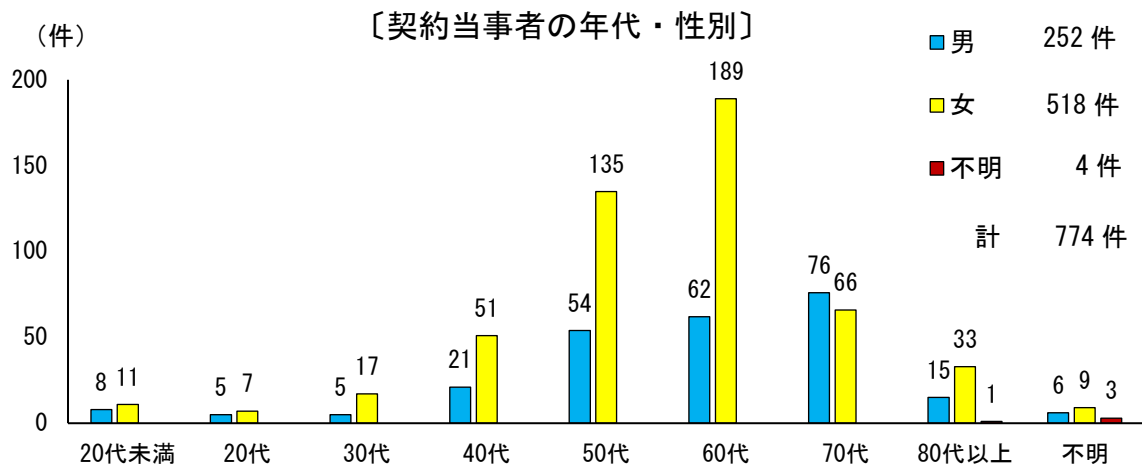
(単位：件)

商品・役務名		令和6年 4-12月 (a)	令和5年 4-12月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
1	化粧品	455	339	116	134.2%
2	健康食品	247	155	92	159.4%
3	医薬品	26	8	18	325.0%
	その他	46	92	▲46	50.0%
計		774	594	180	130.3%

〔定期購入に関する相談件数の推移〕



契約当事者の年代・性別でみると、60代女性が189件と最も多く、次いで50代女性が135件となっています。性別では、女性が518件と、全体の66.9%を占めています。



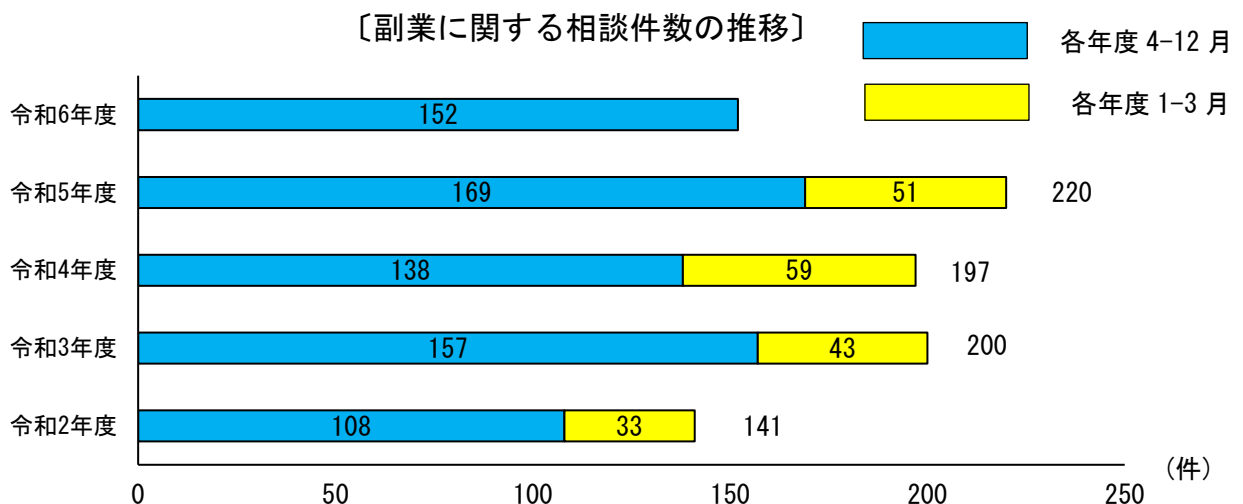
## (2) 副業に関する相談が減少

令和6年4-12月の副業に関する相談は152件で、前年同期より17件(10.1%)減少しました。しかしながら、過去5年間の相談件数の推移をみると、相談件数はまだ高止まりの状態にあると思われます。

収入を得るためのマニュアルの購入費用やサポート費用など様々な名目で請求される費用を、消費者金融から借りて支払うよう強要されて支払ったものの、全く収入を得ることができず債務整理をする事態に陥った事例も少なくありません。

(単位：件)

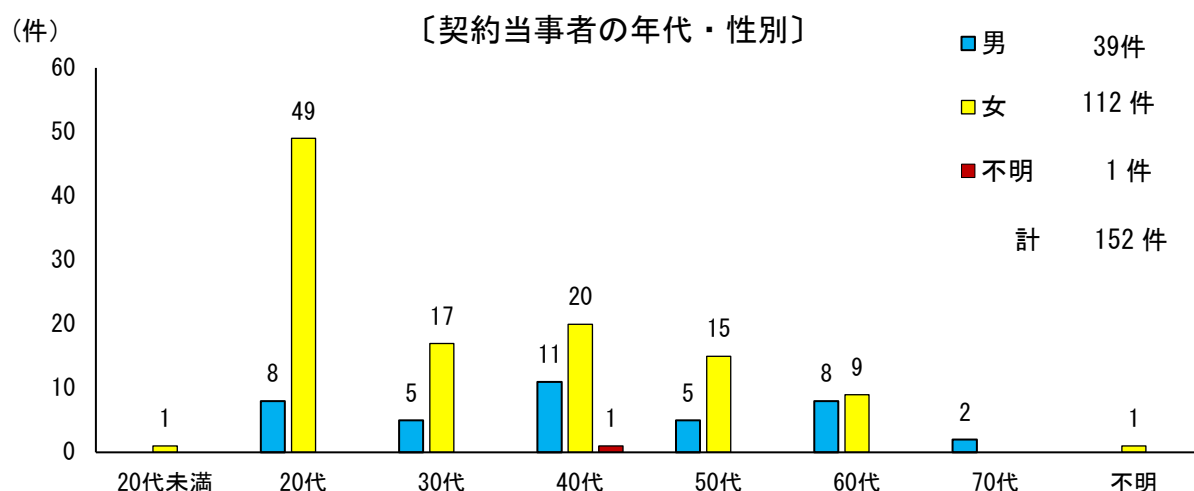
	令和6年 4-12月 (a)	令和5年 4-12月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
相 談 件 数	152	169	▲17	89.9%





契約当事者の年代・性別の特徴をみると、20代女性の49件が最も多く、次いで40代女性の20件となっています。20代以下が全体の38.2%を占めていますが、前年同期には49.1%を占めていたことから、20代以下が占める割合が減少しました。

一方、性別では、女性が112件と全体の73.7%を占めています。



副業に関する相談に係る既払金額をみると、お金を払った人の数、既払金額合計、最大既払金額が減少している一方、一人当たりの平均既払金額は増加しています。

減少したとはいえ、最大既払金額が500万円を超えるなど、高額被害が絶えない状況に変わりはないことがうかがえます。

(単位：件)

	令和6年 4-12月 (a)	令和5年 4-12月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
お金を支払った人の数	76人	80人	▲4人	95.0%
既払金額合計	62,636千円	62,916千円	▲280千円	99.6%
平均既払金額(一人当たり)	824千円	786千円	38千円	104.8%
最大既払金額	5,400千円	5,700千円	▲300千円	94.7%

### (3) 18歳・19歳の相談状況

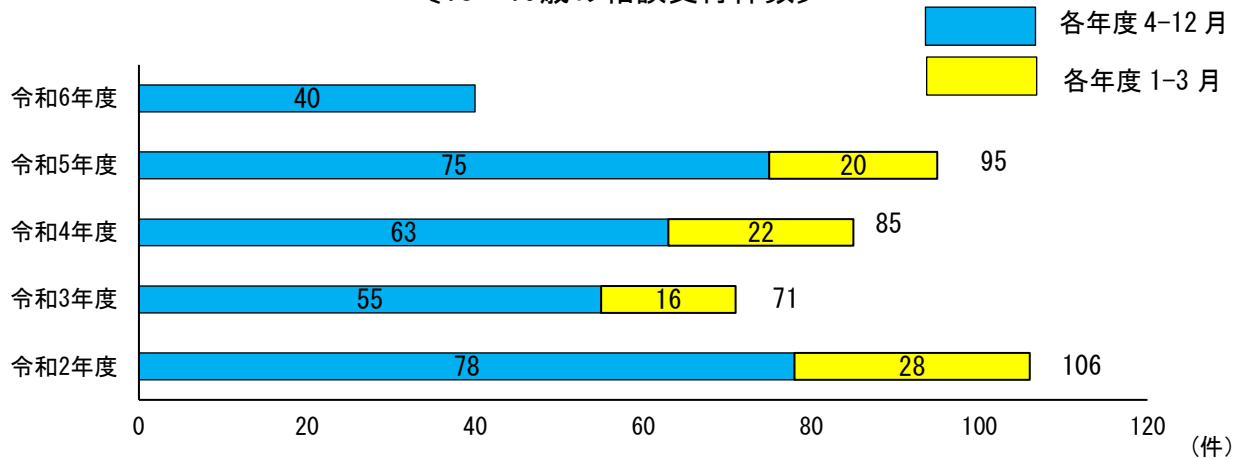
#### ① 概況

令和4年4月1日から改正民法が施行され、成年年齢が20歳から18歳に引き下げられました。これに伴い、これまで未成年者取消権により、契約の取消しが可能だった、18歳・19歳の契約に関するトラブルが懸念されることから、この年代の相談状況に注目しています。

令和6年4-12月の18歳・19歳の相談件数は40件で、前年同期より35件(46.7%)減少しています。

過去5年間の同時期の18歳・19歳の相談件数を見ると、過去5年間で、最も少ないことがわかります。

[18・19歳の相談受付件数]



## ② 18・19歳の主な商品・役務別の相談状況

令和6年4-12月の18歳・19歳の相談では、サプリメントの定期購入などの食料品に関する相談が7件と最も多くなっています。次いで不審なメールなどの商品一般に関する相談が多くなっています。

(単位：件)

	商品・役務名	令和6年 4-12月 (a)	令和5年 4-12月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
1	食料品	7	2	5	350.0%
2	商品一般	5	7	▲2	71.4%
3	レンタル・リース・貸借	4	6	▲2	66.7%
	金融・保険サービス	4	3	1	133.3%
	教養・娯楽サービス	4	20	▲16	20.0%
	他の役務	4	0	4	-
	その他	12	37	▲25	32.4%
	計	40	75	▲35	53.3%

## 4 65歳以上の高齢者の状況

### (1) 全般

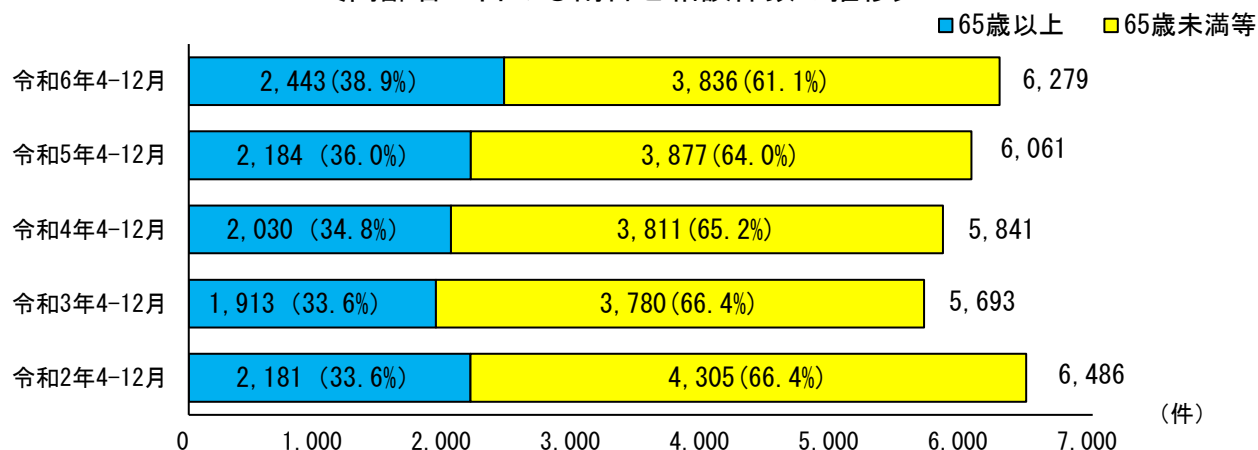
#### ① 概況

令和6年4-12月の高齢者の相談は2,443件で、前年同期と比較して259件(11.9%)増加しています。相談全体に占める割合は38.9%で前年同期の36.0%から2.9ポイント増加しています。

(単位：件)

項目	年度	令和6年 4-12月 (a)	令和5年 4-12月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
苦情		2,022	1,799	223	112.4%
問合せ		421	385	36	109.4%
計		2,443	2,184	259	111.9%

### 〔高齢者が占める割合と相談件数の推移〕



## ② 高齢者の主な商品・役務別の相談状況

令和6年4-12月の高齢者の相談では、不審な電話やメールなどの「商品一般」に関する相談が406件と最も多く、前年同期より119件（41.5%）増加しています。

次いで多いのは、運輸・通信サービスの349件で、前年同期より113件（47.9%）増加しています。光回線などのインターネット通信サービスに関する相談や、固定電話に関する相談が多くなっています。

次いで、食料品の260件で、前年同期より61件（30.7%）増加しています。健康食品の定期購入に関する相談が増加したことが主な要因となっています。

（単位：件）

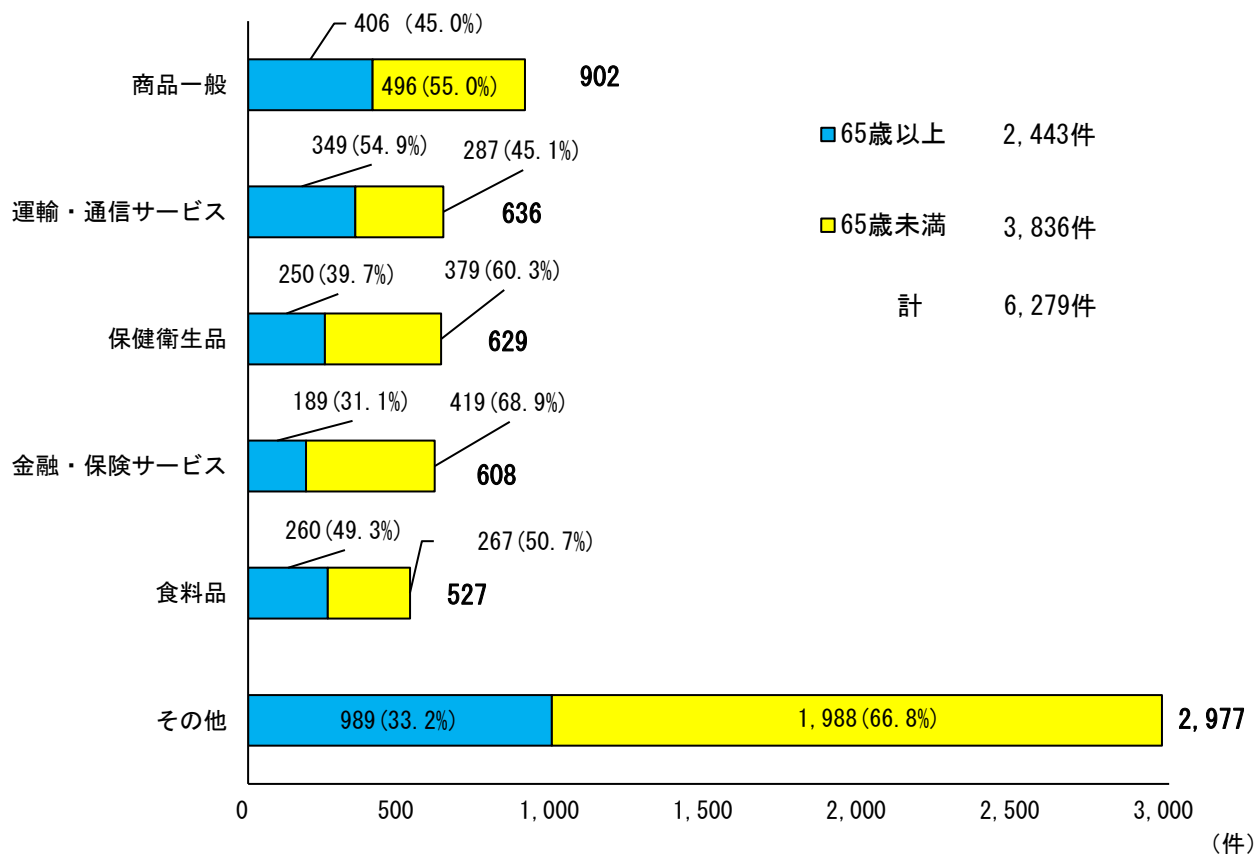
	商品・役務名	令和6年 4-12月 (a)	令和5年 4-12月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
1	商品一般	406	287	119	141.5%
2	運輸・通信サービス	349	236	113	147.9%
3	食料品	260	199	61	130.7%
4	保健衛生品	250	210	40	119.0%
5	金融・保険サービス	189	188	1	100.5%
	その他	989	1,064	▲75	93.0%
	計	2,443	2,184	259	111.9%

### 〔主な商品・役務別の相談に占める高齢者とそれ以外の割合〕

主な商品・役務別の相談に占める高齢者の割合をみると、「運輸・通信サービス」に関する相談が54.9%と最も高くなっています。通信関係の知識に乏しい高齢者に対し、固定電話のデジタル化により、光回線に変更しなければならないと言って光回線の契約をさせるインターネット接続回線に関する相談や「あと2時間で電話が使えなくなる」という不審電話に関する相談が多くなっています。

次いで、「食料品」に関する相談が49.3%となっています。高齢者においても健康食品の定期購入に関する相談が多数ありました。

〔主な商品・役務別の相談に占める高齢者とそれ以外の割合〕



③ 高齢者の相談に係る契約等の既払金額

高齢者の相談に係る既払金額等の状況をみると、お金を支払った人の数、最大既払金額は増加していますが、既払金額合計、一人当たりの平均既払金額は減少しています。

(単位：件)

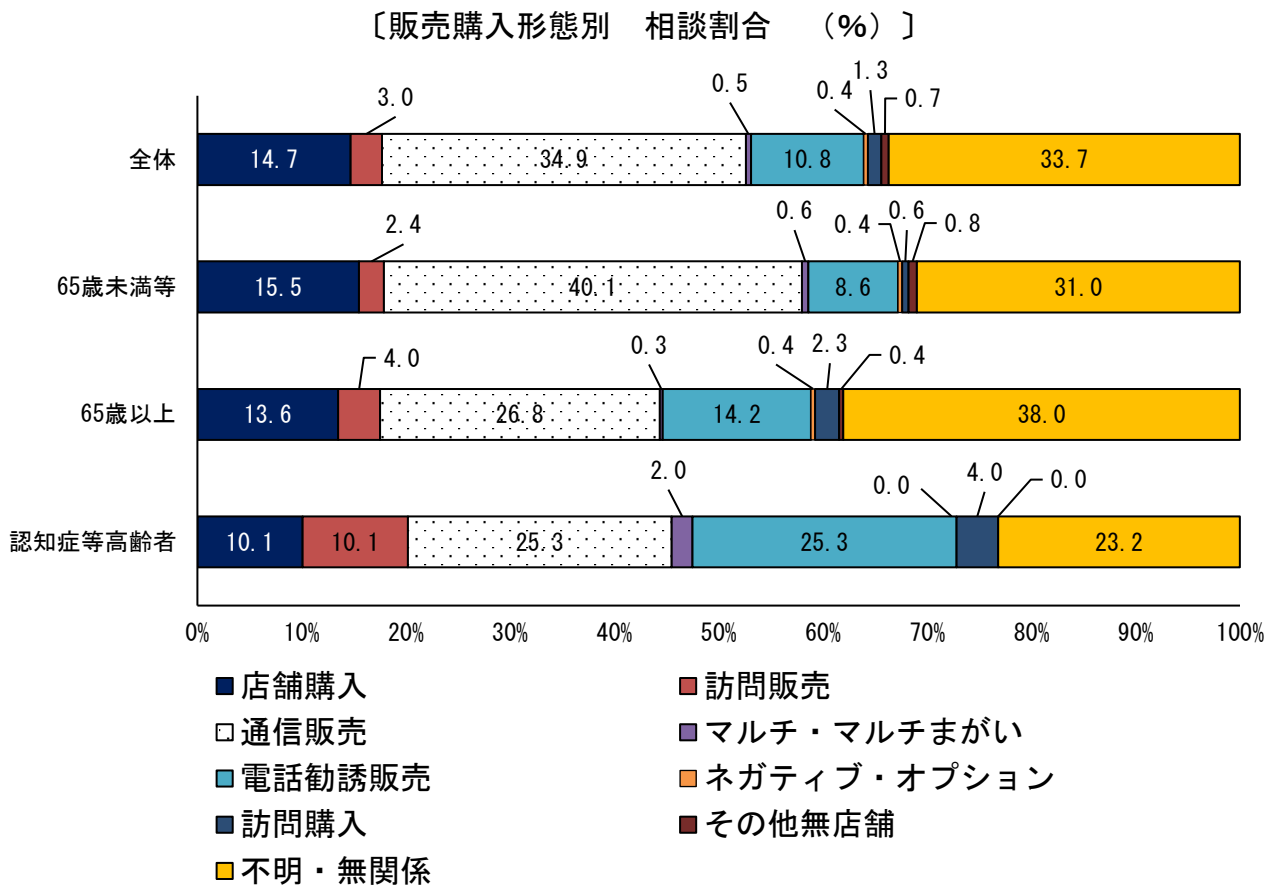
	令和6年 4-12月 (a)	令和5年 4-12月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
お金を支払った人の数	468人	435人	33人	107.6%
既払金額合計	289,959千円	299,668千円	▲9,709千円	96.8%
平均既払金額(一人当たり)	620千円	689千円	▲69千円	90.0%
最大既払金額	40,000千円	36,000千円	4,000千円	111.1%

④ 販売購入形態別相談割合

販売購入形態別でみると、65歳以上では、65歳未満等と比べて訪問販売や電話勧誘販売が多く、特に認知症等高齢者においてその傾向は顕著です。認知症等高齢者の判断力不足に乘じ、悪質な訪問販売や電話勧誘販売が行われていることがうかがえます。

その認知症等高齢者については、通信販売が25.3%となり、前年同期(17.3%)よりも8.0ポイント増加しています。

その他、65歳以上で不明・無関係が多くなっているのは、不審な電話やメールの相談がここに分類されることも要因の一つとなっています。



## (2) 高齢者の特殊詐欺の状況

### ① 概況

高齢者の特殊詐欺に関する相談件数は164件で、前年同期より46件(21.9%)減少しています。類型別にみると、振り込み詐欺が83件(相談件数の50.6%)と最も多く、次いでフィッシング詐欺の32件(同19.5%)となっています。

昨年増加した老人ホームの入居権詐欺の相談が0件となったことが、高齢者の特殊詐欺の相談が減少した大きな要因となっています。

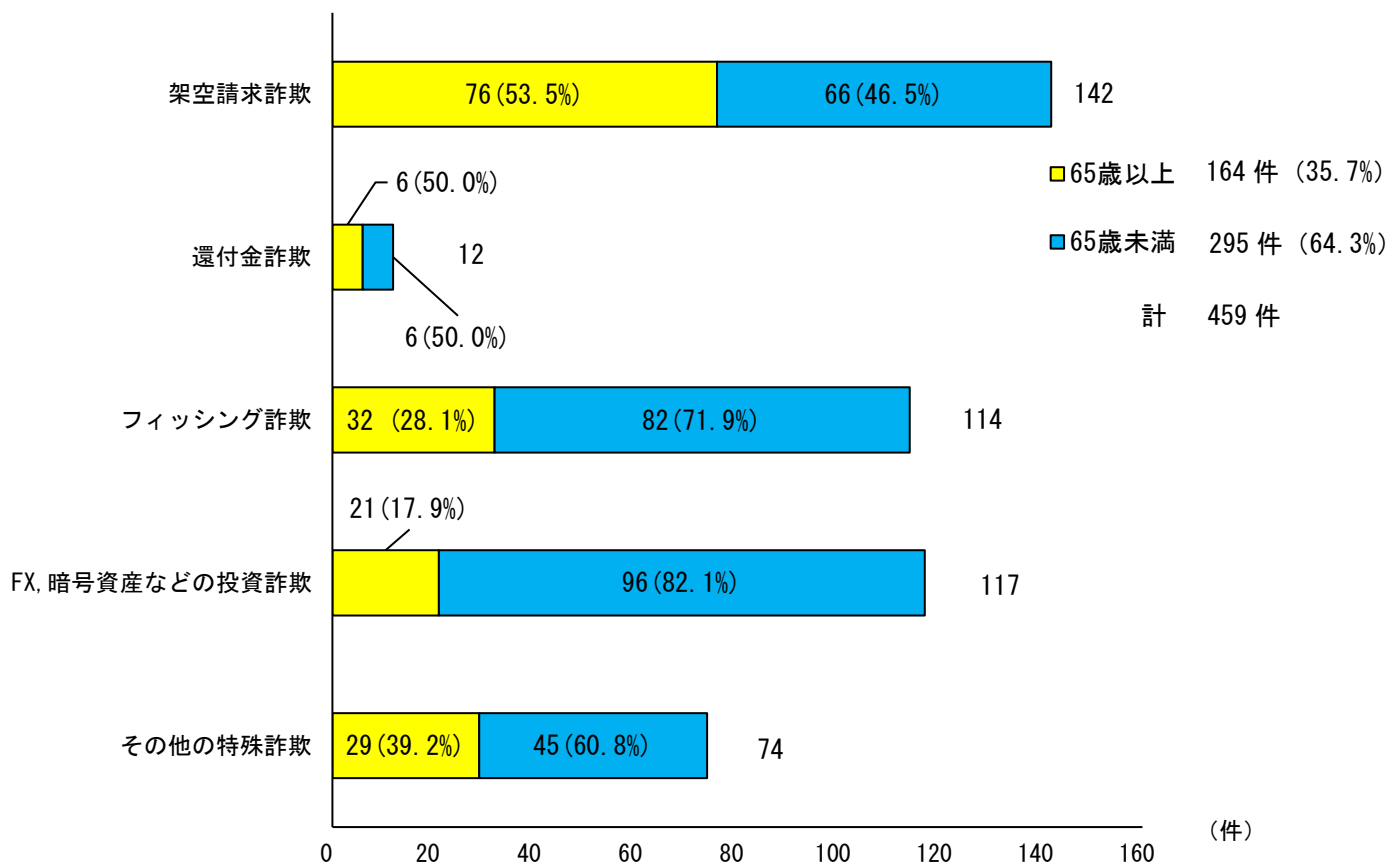
(単位：件)

類 型	年 度		増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
	令和6年 4-12月 (a)	令和5年 4-12月 (b)		
振り込み詐欺	83	80	3	103.8%
架空請求詐欺	76	76	0	100.0%
還付金詐欺	6	4	2	150.0%
融資保証金詐欺	0	0	0	-
オレオレ詐欺	1	0	1	-
フィッシング詐欺	32	49	▲17	65.3%
F X・暗号資産などの投資詐欺	21	19	2	110.5%
ウイルス感染の偽警告(サポート詐欺)	20	21	▲1	95.2%
出会い系サイト・アプリ	6	2	4	300.0%
ワンクリック詐欺	2	13	▲11	15.4%
老人ホームの入居権詐欺	0	26	▲26	-
合 計	164	210	▲46	78.1%

## ② 特殊詐欺類型別に占める高齢者の割合

特殊詐欺類型別に占める高齢者の割合は、架空請求詐欺が 53.5%と最も高く、次いで、還付金詐欺が 50.0%となっています。

〔特殊詐欺類型別に占める高齢者とそれ以外の割合〕



## ③ 高齢者の特殊詐欺に係る既払金額

高齢者の特殊詐欺の相談に係る既払金額の状況をみると、お金を払った人の数、既払金額合計、一人当たりの平均既払金額が増加し、最大既払金額は前年同期と同額となりました。

	令和6年 4-12月 (a)	令和5年 4-12月 (b)	増減 (a-b)	前年比 (a/b)
お金を支払った人の数	25人	19人	6人	131.6%
既払金額合計	115,286千円	64,542千円	50,744千円	178.6%
平均既払金額 (一人当たり)	4,611千円	3,397千円	1,214千円	135.7%
最大既払金額	30,000千円	30,000千円	0千円	100.0%

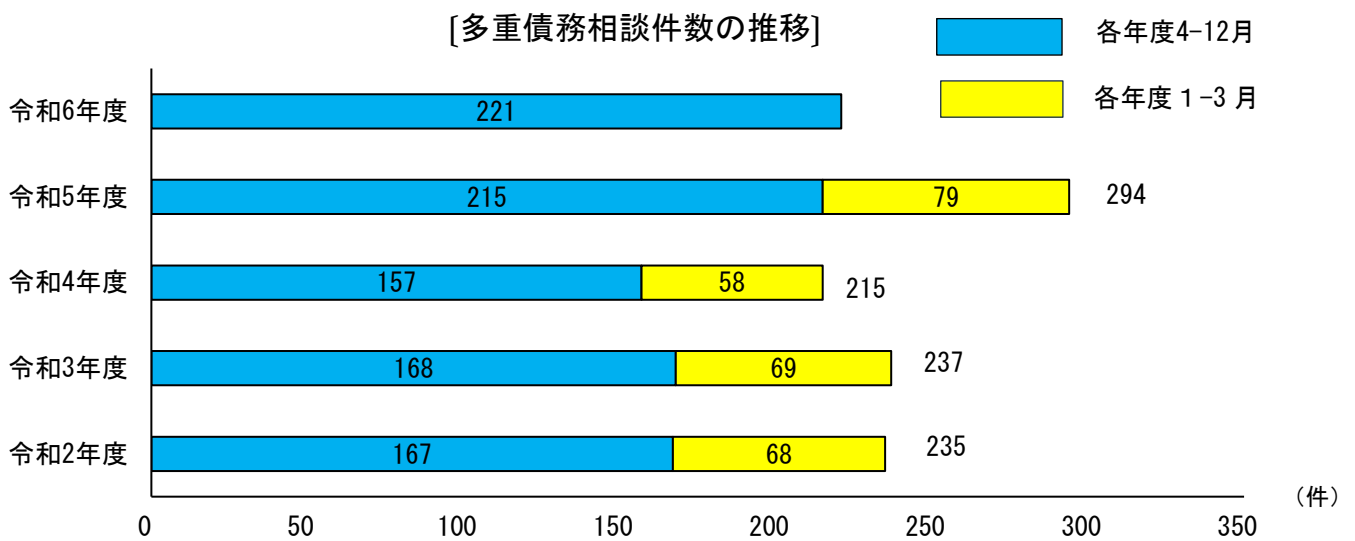
## 5 多重債務に関する相談の受付状況

令和6年4-12月における多重債務に関する相談件数は221件で前年同期より6件(2.8%)増加しています。

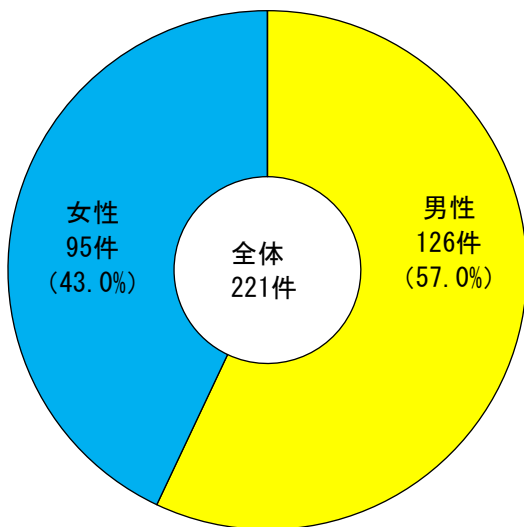
(単位：件)

	令和6年 4-12月 (a)	令和5年 4-12月 (b)	増減 (a-b)	前年度比 (a/b)
相談件数	221	215	6	102.8%

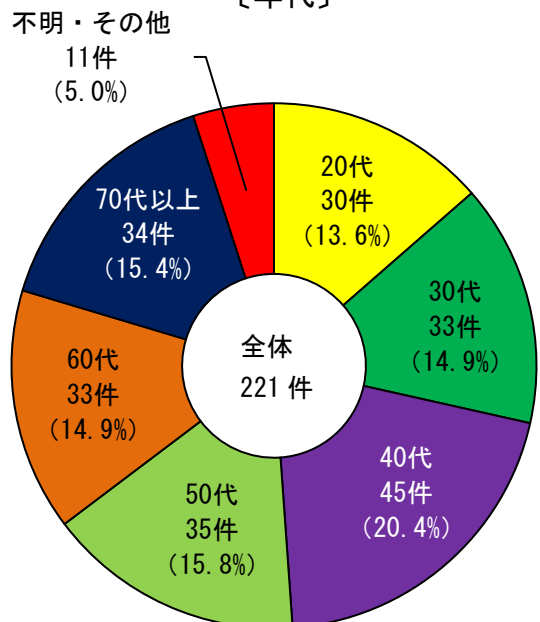
過去5年間の多重債務に関する相談件数を見ると、令和5年度に増加に転じてから、引き続き増加傾向が続いています。

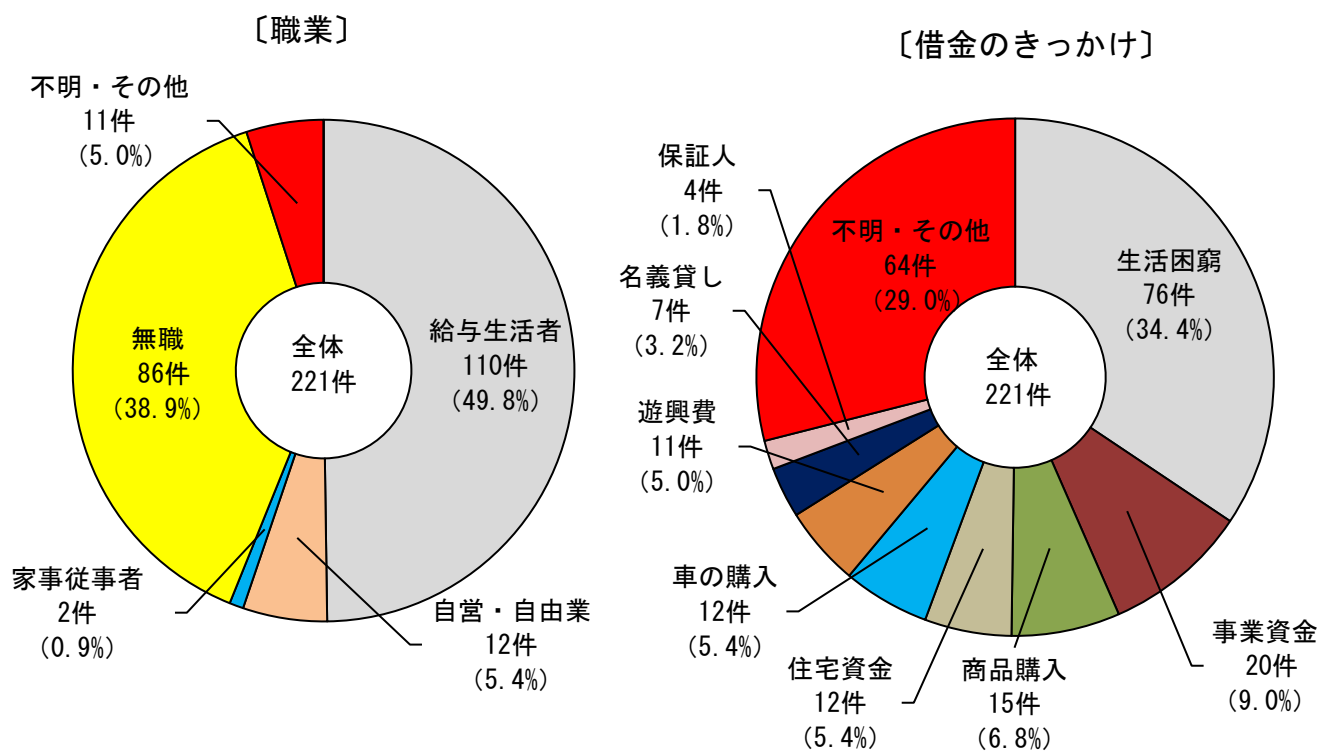


[性別]



[年代]





## 6 ヤミ金などの相談の受付状況

令和6年4-12月におけるヤミ金などに関する相談件数は14件で、前年同期より1件（7.7%）増加しています。

（単位：件）

	令和6年 4-12月 (a)	令和5年 4-12月 (b)	増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
ヤミ金	9	11	▲2	81.8%
融資保証金詐欺	4	1	3	400.0%
借金整理屋	0	0	0	-
ショッピング枠現金化	1	1	0	100.0%
計	14	13	1	107.7%



## 7 商品・役務別相談内訳

(単位：件)

		令和6年4-12月		令和5年 4-12月	増減
			構成比 (%)		
商 品	商品一般	902	14.4	752	150
	食料品	527	8.4	432	95
	住居品	200	3.2	189	11
	光熱水品	133	2.1	121	12
	被服品	236	3.8	276	▲40
	保健衛生品	629	10.0	530	99
	教養娯楽品	328	5.2	386	▲58
	車両・乗り物	159	2.5	166	▲7
	土地・建物・設備	110	1.8	115	▲5
	他の商品	14	0.2	23	▲9
	小計	3,238	51.6	2,990	248
役 務	クリーニング	12	0.2	34	▲22
	レンタル・リース・貸借	212	3.4	226	▲14
	工事・建築・加工	144	2.3	148	▲4
	修理・補修	69	1.1	80	▲11
	管理・保管	3	0.0	2	1
	役務一般	56	0.9	64	▲8
	金融・保険サービス	608	9.7	591	17
	運輸・通信サービス	636	10.1	515	121
	教育サービス	15	0.2	17	▲2
	教養・娯楽サービス	381	6.1	392	▲11
	保健・福祉サービス	181	2.9	235	▲54
	他の役務	414	6.6	480	▲66
	内職・副業・相場	57	0.9	50	7
	他の行政サービス	41	0.7	41	0
小計	2,829	45.1	2,875	▲46	
他の相談	212	3.3	196	16	
合計	6,279	100.0	6,061	218	

商品 主な 相談 の	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 商品一般（商品を特定できないもの）</li> <li>② 保健衛生品（化粧品、医療用具、医薬品）</li> <li>③ 食料品（健康食品、魚介類、飲料）</li> <li>④ 教養娯楽品（他の教養娯楽品、電話機・電話機用品、書籍・印刷物）</li> <li>⑤ 被服品（紳士・婦人洋服、履物、洋装下着）</li> </ul>
役務 主な 相談 の	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 運輸・通信サービス（インターネット通信サービス、電報・固定電話）</li> <li>② 金融・保険サービス（融資サービス、他の金融関連サービス、生命保険）</li> <li>③ 他の役務（役務その他、外食・食事宅配、冠婚葬祭）</li> <li>④ 教養・娯楽サービス（他の教養・娯楽、娯楽等情報配信サービス、教室・講座）</li> <li>⑤ レンタル・リース・貸借（不動産貸借、レンタルサービス、リースサービス）</li> </ul>